

SHIRAKOBATO

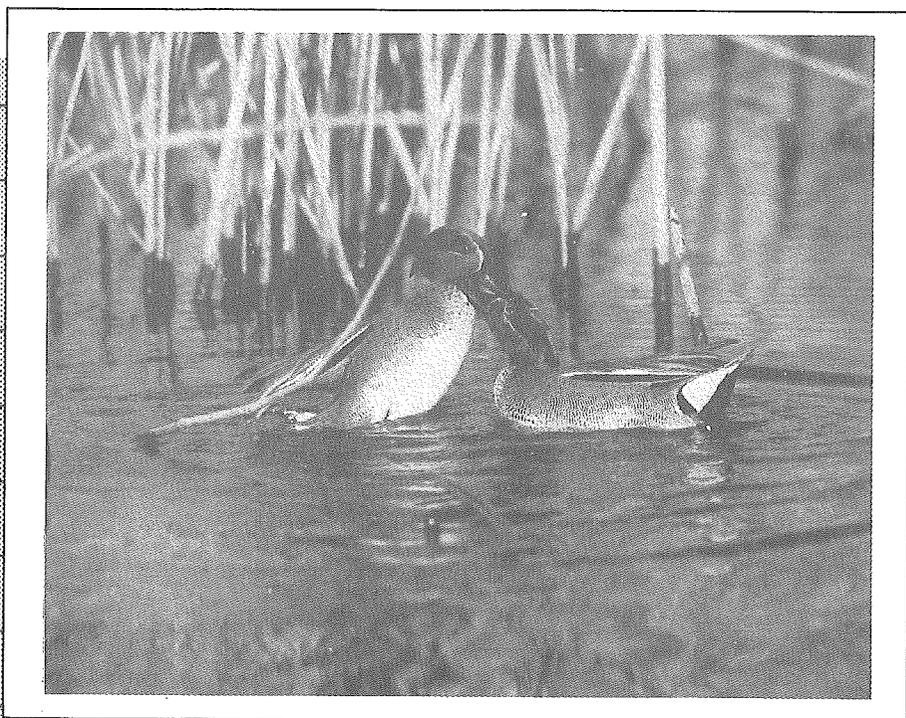
しらこぼと



1993. 12

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 116

日本野鳥の会 埼玉県支部

みなさんに感謝

バードソン

リブラン埼玉レッズバーダー

さる10月31日(日)に行われましたバードソンも、会員みなさまの熱いご支援とご協力
で、力一杯走り続けることができました。そこでお礼と感謝の気持ちをこめ、メンバーと支
援ドライバーから、当日の報告をさせていただきます。

まず道満

午前5時30分。まだ真っ暗な戸田市道満グ
リーンパーク駐車場に集合。早朝にもかかわ
らず、チームメンバーの他に6名のサポー
ターも駆けつけてくれた。ここでは、予定通
りにカモ、サギなどを確実にクリア。うれし
い誤算は、何とハイロチュウヒを至近距離
で観察できたこと。予定より30分ほど遅れて
出発。ほぼ予定通り43種を確認。

道満調整池から三室へ向かう途中、秋ヶ瀬
に少し立ち寄りシラコバトをしっかりとチェッ
ク。チュウサギがいたのはラッキー。

三室へ

秋ヶ瀬から三室へ向かう車の中で、差し入
れのおにぎりの朝食。ところが、三室に到着
すると、ここでも味噌汁とおにぎりの差し入
れが……。とりあえず、味噌汁をすすりな
がら郷土博物館の庭にやってきたメジロ、コ
ゲラ、シジウカラをチェック。芝川沿いで
キジの姿を確認できたのはもうけもの。差し
入れは昼食用としてありがたく頂戴して出
発。

川田谷、石戸宿では

桶川の川田谷では、渡って来たばかりの約
40羽のタゲリを予定通り確認。

石戸宿でも、多数のサポーターの方々に
迎えられる、いざ探鳥開始。ところが、さっ



日暮れの阪東大橋で、おつかれ様でした

きまで鳴いていたというアオゲラも、いつも
鳴き声が聞こえるはずのカケスも出てこな
い。でも、予定外のクイナの声を確認し、森
の鳥は森林公園でなんとかなるさ、と出発。

森林公園でも

森林公園への道すがら、川島町でケリを確
認。メンバーの中には、この時初めてケリを
見たという幸せ者も。

森林公園では、支部会員のサポーターの他
に、公式スポンサーのリブランの人たち6名
も参加。ところが、予定していたヤマガラ、
ヒガラの声は全く聞こえず、目標の70種達成
に暗雲が……。入園料まで払っているの
に。とりあえず園内バスに乗り込みオシドリ
を確認するために長沼へ。バスはバードソン
ご一行さま17名で満員御礼。運悪く乗り合わ
せてしまった人たち、ごめんなさい。

大麻生と仙元山も

大麻生ではコハクチョウをまずチェック。
アカゲラやヤマガラも野鳥の森で期待してい
たが、サポーターの下見の結果は「何もいな
いから、阪東大橋へ行く途中で仙元山へ寄っ
た方がいいよ」とのこと。

仙元山でも森の中はシーンと静まり返っ
て、かろうじてキクイタダキの声を確認でき
ただけ。この時点で確認種は64種。目標の70
種が危ぶまれる。阪東大橋に希望を託して仙
元山を後にする。

阪東大橋だ

いよいよトリの阪東大橋。土手の上から、
なぜかもれていたトビをまず確認。アオアシ
シギの声でもう1種追加。珍しくオオハクチ
ョウもレッズバーダーをお出迎え。河原にお
りて水際作戦??。イカルチドリ、シロチド
リ、オカヨシガモで70種達成。草むらから思
いがけずウズラも飛び出し、最後はセグロカ

場所と確認種

道満 カイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ハイイロチュウヒ、チョウゲンボウ、パン、オオパン、ハマシギ、クサシギ、タシギ、ユリカモメ、ウミネコ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ウグイス、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上43種)

秋ヶ瀬 チュウサギ、シラコバト、オナガ

(3種追加)

三室 キジ、タカブシギ、イソシギ、コゲラ、シジュウカラ、メジロ (6種追加)

川田谷 タゲリ (1種追加)

石戸宿 コジュケイ、クイナ、キセキレイ、セッカ (4種追加)

川島町 ケリ (1種追加)

森林公園 オシドリ、シロハラ、シメ、カケス (4種追加)

大麻生 コハクチョウ (1種追加)

仙元山 キクイタダキ (1種追加)

阪東大橋 オオハクチョウ、オカヨシガモ、トビ、ウズラ、イカルチドリ、シロチドリ、アオアシシギ、セグロカモメ

(8種追加 以上72種)

モメで締めくくり。目標を達成した満足感を味わいながら会心の笑顔で記念写真の撮影。

ありがとうございました

各ポイントで下見をしたり、応援して下さいましたみなさん、事務局電話当番のみなさんどうも有り難うございました。今までにない強力なサポートのおかげで、目標の70種をクリアし、72種という結果を出すことができました。きっと鶴の恩返しがあることと思います。

お願いします

この記事が皆様のお手元に届く頃には、バードソン事務局から募金の振込用紙が届いていると思いますので、忘れずに送金をお願いします。また、つい募金の申し込みを忘れてしまった人も、バードソン全体を応援するという形での募金は来年の3月31日まで受け付けています。

～追伸1～

登坂 立ち寄り場所を欲張って増やし過ぎたかな、と思ったけれど、大体予定通りに運んで良かった。綿密な計画の勝利！と自画自賛。

佐久間 長い一日かな、と思ったが、あっと言う間に過ぎてしまった。もう少し、余裕が欲しかった。次回のバードソンにも、ぜひ多くの人が名を…。いろんな鳥を見られて面白いですよ。

菱沼 鳥を見るようになって、70種になるまで数カ月かかったような気がするが、それを12時間で見るのは実にしんどい。でも初心に帰ったようで楽しかった。

手塚 疲れると思ったけど、そんなに疲れなかったね。結構、楽しかったよ。

～追伸2～

長谷部ドライバーから 午前5時。西の空には満月、南の空には冬の星座オリオンが輝いている。天気心配はいらない。いよいよバードソンのスタートだ。

私は支援ドライバー。一生懸命鳥を見る必要はない。要求されるのは、安全・確実にチームを目的地に運ぶこと。あとは一日バードウォッチングを楽しませてもらうつもり。もしかしたら見たことのない鳥に会えるかもしれないという期待もある。

道路は混雑もなくほぼ予定通りに各探鳥地を回り着実に鳥種を増やし、最終目的地阪東大橋で目標の70種を突破した。終了時間がせまり、のこり20分を切ったところで71種。私の予想とピッタリだ。思わず笑みがこぼれる。その時、「セグロカモメだ」の声。72種目出現。・・・私のピタリ賞は、夕日とともに沈んでしまった。ここちよい疲労感と充実感に包まれ帰路に着く。

でも、やっぱりセグロカモメはきらいだ。

～伸～ ときゆめんと 事務局電話番

10:30 楠見さん「8:50に三室終って50種。丸山公園は飛ばして石戸宿へ」
 12:00 立岩さん「石戸宿 11:20発、川島町經由森林公園へ」
 12:10 菱沼さん（奥さん）「大麻生は何時ころになりそう？」
 12:15 吉原さん「森林公園北口に到着」
 登坂さん「本部に連絡を」
 12:20 本部へ連絡「現在58種」
 12:30 町田さん「サポーターたちのいままでの確認種。待ち合わせ場所を変更したい」
 1:05 海老原さん「経過は？」
 2:00 手塚さん「森林公園を出ます。待ち合わせ場所変更了解。4種増えた」

2:10 内藤さん、吉原さん「現在62種」
 2:50 草間さん「激励よ！」
 2:50 森本さん「2:40大麻生発。仙元山から阪東大橋へ。現在63種」
 4:00 岡安さん「その後の経過は？」
 5:25 登坂さん「5:00に終了。72種。目標無事クリアー！」
 5:30 松井さん「黒田会長カラス組のほうは23種でした。レッズバーダーは？」
 5:35 本部に最終連絡。
 おつかれさまでした～！
 笠原伸子・黒田佳子・嶋田和江
 （午前10時ころまで、手違いで電話切替できず、留守番電話になってしまいました。ごめんなさいー事務局）

1993年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：1993年9月15日

AM 10:00～12:00 大久保農耕地

天候 晴れ

AM 9:30～11:00 入間川

天候 曇り時々晴れ

9月15日に埼玉県内のシギ・チドリ類の一斉調査が支部会員多数のご協力で実施された。この日は、前線が関東の南に停滞していたが、高気圧が北日本を覆ったため、関東から北の地方は晴れて、まずまずの天気となった。

大久保農耕地における荒川河川敷内の水田は、例年ならほとんど刈取りが終っている時期であるが、今年は冷夏のためか、刈取りが済んでいるのは半分以下だった。その為か、例年に比べ、種類数・個体数とも少なくなった。異常乾燥だった昨年に次ぐ少ない結果である。

なお、同日 AM 9:30～11:30 利根川阪東大橋下流も増水していて、イソシギ2羽がカウントされたのみである。（執筆 石井 智）

表 1993年秋 シギ・チドリ類調査結果

調査地	大久保農耕地			入間川（豊水橋～新富士見橋）		
	浦和市／大宮市			狭山市		
鳥種	1991	1992	1993	1991	1992	1993
タマシギ	1					
イカルチドリ				1	1	9
シロチドリ	2					
ムナグロ	142	10	24			
キョウジョシギ	2		2			
トウネン	2					
クサシギ	1					
タカブシギ	17					
イソシギ	5		1	1	3	8
タシギ	185		80			
ジシギSP.	8		3			
アカエリヒレアシシギ	9					
個体数合計	374	10	110	2	4	17
種数合計	11	1	5	2	2	2

海外カスミ網獵調査費用カンパのお願い
海老原美夫（浦和市）

三省堂刊『夏鳥たちの歌は、今』の編者で、宮古支部長の遠藤公男さんから手紙が届きました。東南アジア某国での水鳥の無差別大量捕獲の現場報告から始まっています。

ある地域だけで、1979年には100万羽、1986年には29万羽、91年秋～92年春には推定15万羽という大量のシギ・チドリ類や、クイナ類、サギ類が捕獲された。種類別ではツバメチドリが85年～86年に45,000羽、ヨシゴイが90～91年に8,000羽など。駅弁にシギ・チドリの唐揚げが使われて、名物になっているところもあるという。

このすさまじい実態をレポートして、何とか国家的な救援活動を展開したいと願い、再度の調査を計画しているが、資金が不足しており、カンパを願うという内容です。

問題が表面化すると、その国は入国を禁ずる恐れがあるため、新聞等で広く呼びかけることもできず、「今までの調査は自費で出かけていました。次の調査費用としては、全国からのカンパなどを合わせてもおお40数万円が不足しています。私は著述業ですが、失業のようなもの。妻からのカンパは限界に達し…」という文面には、思わず納得してしまいました。

遠藤公男さん
に、ご支援をお願いします。

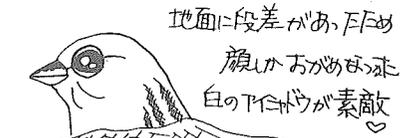


’93 秋の流り. フォードにて

マミチャジナイ



ノシゴ



恐怖の
チツチツ攻撃を
しかけて、またもや
去ってしまいました…

(高橋美保子)

冬景色

藤原寛治（大宮市）

私の好きな曲のひとつに「冬景色」という唱歌がありますが、そこに「ただ水鳥の声はして はまだ覚めず岸の家」という一節があります。朝もやの中から聞こえてくるのはどんな声でしょうか。「ピリッ、ピリッ」というコガモのかわいい声。ときおり聞こえるのは「グアア～グエグエグエ」というマガモおばさんの声でしょうか。のどかですね。

コガモ、マガモの他によく耳にするのが、「グェッ、グェッ」というカルガモの声。「ピュー」と大きく口を開けて、鋭く鳴くのは、ヒドリガモです。これでもかというくらい思いっきり口を開けて鳴く姿は、けなげでさえあります。「ツルの一声」ならぬ「ヒドリの一声」ですかね。

冬の身近な野鳥であるカモたちを観察する時、鳴き声にも気をつけるともっとおもしろいかと思います。



野鳥情報

- ハジロカイツブリ ◇9月7日、戸田市道満荒川第一調節池で夏羽2羽(横山初夫)。
- サギ(ねぐら) ◇9月5日午後6時、坂戸市西坂戸の調節池でコサギ約60羽、ダイサギ10羽、ゴイサギ10羽、アオサギ1羽の群れ。同9時頃に見に行ったが、数に変化なく、ねぐらであることを確認(増尾隆・節子)
- ヨシゴイ ◇9月10日、川越市の伊佐沼で、台風でヨシもまばらになった中州2つに3羽と2羽。うち1羽が飛び立って、翼の模様をしっかりとみせてくれた(中司隆由)。
- アマサギ ◇8月14日、川里村上会下の田んぼで約50羽(内藤義雄)。◇9月6日、坂戸市西坂戸の調整池で他のサギ類の群れ中に1羽(増尾節子)。
- チュウサギ ◇8月20日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で8羽(横山初夫)。◇8月20日、戸田市道満荒川第一調節池で12羽(森永徳一)。
- アオサギ ◇8月22日、北本市石戸宿の自然観察公園で幼鳥? 1羽(永野安彦・京子)。◇8月26日、戸田市道満荒川第一調節池で8羽(森永徳一)。
- アカツクシガモ ◇8月26日午後3時頃、川越市南古谷本郷の休耕田の水たまりで数羽のカルガモとともに採餌。その後カルガモとともに南方に飛び去った(野川一臣)。
- マガモ ◇9月2日、本庄市の阪東大橋下流



アカツクシガモ(野川一臣)

- で1羽(井上幹男)。◇9月11日、富士見市の新河岸川、南畑橋上流で♀2羽、エクリプスの♂1羽(中司隆由)。
- コガモ ◇9月5日、戸田市道満荒川第一調節池で20羽以上。今年ここでは、ハシビロガモ・オナガガモ・ヒドリガモ・マガモ・ホシハジロなどが越夏した(海老原美夫)。
- トモエガモ ◇浦和市の白幡沼で♀1羽。4月から越夏。9月現在滞在中(海老原美夫)。
- オナガガモ ◇9月13日、本庄市の阪東大橋下流で3羽(井上幹男)
- ハシビロガモ ◇8月25日、戸田市道満荒川第一調節池で♀タイプ4羽(森永徳一)。
- ミサゴ ◇8月22日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。カラス3羽に追われ、やっと落ちていたと思ったら、今度はトビ2羽にからまれる(町田好一郎)。
- オオタカ ◇8月21日、深谷市の上武大橋下流で若鳥1羽(井上幹男)。
- サンバ ◇9月6日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。
- ハヤブサ ◇9月3日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。
- ウズラ ◇9月1日、川越市南古谷の休耕田で1羽。白い眉斑がよく目立った(細井要)。
- イカルチドリ ◇8月16日、菖蒲町上栢間の休耕田で16羽(内藤義雄)。◇8月18日、川里村北根の休耕田で12羽(内藤義雄)。
- シロチドリ ◇8月17日、深谷市の上武大橋下流で100羽以上(井上幹男)。
- ムナグロ ◇8月16日、鴻巣市郷地の野通川沿いの休耕田で5羽(内藤義雄)。◇8月18日、菖蒲町の上栢間の休耕田で12羽(内藤義雄)。◇8月18日、川里村北根の休耕田で4羽(内藤義雄)。◇9月1日、川越市南古谷の休耕田で116羽(細井要)。◇9月5日、浦和市秋ヶ瀬のA区で2羽。鳴きながら上空通過。稲刈りが遅れているのでなかなか降りられない(海老原美夫)。
- キョウジョシギ ◇9月1日、川越市南古谷の休耕田で1羽(細井要)。◇9月2日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。
- トウネン ◇8月11日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。◇9月1日、川越

市南古谷の休耕田で4羽(細井要)。
 オジロトウネン ◇9月2日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。
 オグロシギ ◇9月2日、本庄市の阪東大橋下流で6羽(井上幹男)。
 コアオアシシギ ◇9月3日、本庄市の阪東大橋下流でアオアシシギ群れ中に2羽(井上幹男)。
 アオアシシギ ◇8月16日、菖蒲町上栢根の休耕田で5羽(内藤義雄)。
 クサシギ ◇8月16日、菖蒲町上栢根の休耕田で1羽(内藤義雄)。◇9月1日、川越市南古谷の休耕田で2羽(細井要)。
 タカブシギ ◇8月16日、菖蒲町上栢根の休耕田で3羽(内藤義雄)。
 キアシシギ ◇8月18日、菖蒲町上栢根の休耕田で1羽(内藤義雄)。
 チュウシャクシギ ◇9月10日、富士見市水子の水谷中学校西側の田んぼで1羽。鳴きながら飛ぶ(渡辺敦)。
 タシギ ◇9月5日、浦和市秋ヶ瀬のA区で7羽(海老原美夫)。
 ジシギs p. ◇9月5日、浦和市秋ヶ瀬のB区で2羽(海老原美夫)。◇9月6日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。
 アカエリヒレアシシギ ◇9月3日、本庄市の阪東大橋下流で約50羽(井上幹男)。
 ユリカモメ ◇8月17日、深谷市の上武大橋下流で夏羽1羽(井上幹男)。
 カモメ ◇9月3日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷でユリカモメ、ウミネコ、アジサシの群れ中に1羽(高橋達也)。
 ウミネコ ◇8月29日、富士見市水子の柳瀬川で1羽。上流に飛んで行く(中村治)。
 ハジロクロハラアジサシ ◇9月5日、戸田

市道満荒川第一調節池で若鳥1羽。アジサシの群れと一緒に水面の杭の先にとまって伸びをしたり、頭をかいたり。短めのくちばし、目の後ろと頭の斑紋、飛ぶと真っ白い羽裏が印象的でした(高松格、新堂克浩、海老原美夫)。

アジサシ ◇8月9日、戸田市道満荒川第一調節池で4羽(横山初夫)。◇9月5日、戸田市道満荒川第一調節池で7羽。亜種アカシアアジサシ(海老原美夫)。◇9月4日、本庄市の阪東大橋下流で19羽。コアジサシ1羽(井上幹男)。
 シラコバト ◇8月20日、JR白岡駅上りホーム屋根裏に粗末な巣。1羽巢の中に(岡安恵司)。
 ツツドリ ◇9月5日、浦和市秋ヶ瀬公園の野鳥園で赤色型1羽(海老原美夫)。
 カワセミ ◇8月16日、深谷市の別府沼公園で1羽(松浦準一)。◇8月29日、志木市の柳瀬川、高橋~富士見橋間で♂1羽(中村治、渡辺敦)。
 ショウドウツバメ ◇8月21日、深谷市の上武大橋下流で大群(井上幹男)。◇9月5日、戸田市道満荒川第一調節池で(海老原美夫)。
 キマユツメナガセキレイ ◇9月14日、浦和市秋ヶ瀬のA区で1羽。15日、同所で2羽(細井要)。
 ノビタキ ◇9月13日、本庄市の阪東大橋下流で3羽(井上幹男)。
 センダイムシクイ ◇8月29日、大宮市櫛引町1丁目1丁目で1羽(浅見健一)。
 コサメビタキ ◇9月6日、戸田市道満の釣り堀の横の林で3羽(高橋達也)。
 イカル ◇8月29日、上福岡市上福岡の自宅付近で1羽(中村治)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト 1993 入選作

コガモ(ガンカモ科)

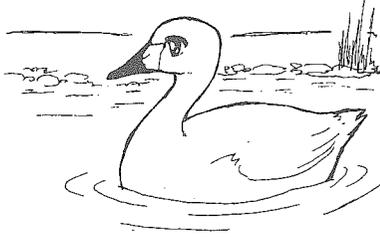
1月にもなると、カモたちはすっかり繁殖羽に変わり、雌をめぐっての求愛行動や、雄どうしの争いがあちこちで見られるようになります。

この争いは、写真判定によると左側の「メ

ン」が、右側の「突き」より一瞬早く決まっているように見えますが、如何でしょうか。「同体と見てとり直し」というわけにはいきませんが。

登坂久雄(八王子市)

行事あんない



(渡辺 敦)

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月5日（日）

集合：午前8時30分 自然観察公園駐車場

交通：JR高崎線北本駅西口よりリーダーの指示に従ってタクシーに分乗して下さい。（午前8時15分ごろから）

担当：岡安、榎本、内藤、吉原、関口、永野（安）、永野（京）

見どころ：先生も鳥見人も忙しい師走、どのような鳥で賑わいを見せるでしょうか。昨年はノスリ、オオタカ、アカゲラ、ルリビタキがでてくれました。前回のシレットクイズの答えも発表します。

浦和市・見沼ヘルシーロード探鳥会

期日：12月11日（土）

集合：午前9時 大崎事業所裏の芝生のグラウンド

交通：JR浦和駅西口1番バス乗り場より大崎園芸植物園行き8:18発、またはさぎ山記念公園行き8:32発に乗車、大崎園芸植物園下車

担当：伊藤、楠見、草間、笠原、桜庭、新堂、高松

見どころ：真っ白い富士山を眺めながら、ツグミやジョウビタキたちの出会いを楽しみ、見沼たんぼ周辺を歩きます。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月12日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：菱沼（一）、森本、関口、菱沼（洋）、斉藤、塚本、中島（章）、小池、和田、石井（博）

見どころ：ワイルドダック、大麻生のカモ達は野生そのもの。そんな彼等をこそこそとねらう若いオオタカ。一見のどかな大自然にもドラマは繰り返されている。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月12日（日）

集合：午前9時10分 西武線西武球場前駅前

交通：西武狭山線西所沢8:58発→西武球場前9:03着

担当：三田、石井（幸）、長谷部、柳原、黒田、小野、杉本、山本、中村（祐）

見どころ：シマシマ模様だったカンムリカイツブリの子供達もこんなに真っ白になっておひろめです。森の冬鳥もあなたを待っています。防寒対策お忘れなく。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：12月19日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、笠原、伊藤、田口、岡部、嶋田、倉林

見どころ：今年の鳥見の締めくくり、鳥仲間

たちとの一年の交遊を感謝する探鳥会です。昨年は42種の鳥がでてくれて最多出現記録となりました。年の暮の忙しさの合間にお越し下さい。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月19日（日）
集合：午前10時 森林公園南口駐車場
交通：東武東上線森林公園駅から森林公園南口行き9:42発バスに乗車、終点下車。
費用：入園料（370円、小・中学生80円）
担当：吉原、榎本、岡安、内藤、立岩、関口、逸見、永野（安）、永野（京）
見どころ：落ち葉を踏みながら冬枯れの小径を行くと、ミヤマホオジロが、キクイタダキが、ルリビタキが。そして落ち葉をかきわける音はシロハラ？アカハラ？トラツグミ？沼のオシドリにも期待。

年末講演会

期日：12月23日（祝）午後2時～4時30分
会場：埼玉県民活動総合センター（伊奈町）
TEL 048-728-7111
交通：ニューシャトル大宮駅13:00発で約25分、羽貫駅下車。会場迄無料送迎バス利用。またはJR上尾駅東口からセンター行き12:50発バスに乗車、約25分。車での来場の方は無料駐車場あり。
講演テーマ：「都市に住む鳥について」
講師：川内 博氏（都市鳥研究会事務局長）
なお講演に先だて「埼玉県支部の一年」、「利根川の鳥」のVTR放映。
講演会終了後親睦会を予定しています（16:45～18:00）。会場は当館1Fレストラン、会費は2500円。
多数の方のご参加をお待ちしています。

「しらこぼと」袋づめの会

とき：12月25日（土）午後1時～2時ごろ
会場：支部事務局 108号室

野鳥写真クラブ定例会

とき：12月25日（土）午後2時ごろ～5時

会場：「しらこぼと」袋づめの会と同じ

浦和市・さき山記念公園探鳥会

期日：平成6年1月3日（月）
集合：午前9時30分 さき山記念公園駐車場
交通：大宮駅東口7番バス乗り場より中野田引返場行きで約20分、上野田下車。当日は正月ダイヤで、1時間に3～4本は運行されるはずでず。
担当：海老原、松井、楠見、藤原、工藤、桜庭、新堂、佐藤（進）、高松
見どころ：新年最初の探鳥会。タゲリやチョウゲンボウに挨拶した後は、日だまりで人間同士のご挨拶。今年もよろしく。1年に1度、この日だけはお酒持参オーケー。もちろん飲むのは探鳥会が終わったあとだけです。

千葉県・銚子港探鳥会（要予約）

期日：平成6年1月29日（土）～30日（日）
集合：29日午前8時 JR大宮駅東口あさひ銀行前。
交通：貸切りバス利用
費用：20,000円程度（交通費・宿泊費・食事・保険料・参加費など）
定員：35名（先着順、県支部会員優先）
担当：榎本、岡安、内藤、菱沼（一）
申込み：往復葉書に住所・氏名・年令・性別電話番号を明記の上、榎本秀和
まで。定員に達し次第締め切ります。申し込みはくれぐれもお早めに。
見どころ：日本一のカモメの名所へ、今年もバスツアーを企画しました。海ナシ県ではお目にかかれない海鳥を、この機会にたっぷり楽しんでみませんか。一日目は船橋海浜公園にも立ち寄ります。
注意：宿泊は男女別に相部屋となります。

平成6年1月9日（日） 大麻生定例探鳥会
平成6年1月15日（祝） ガン・カモ調査
注意：JR・私鉄等12月初旬にダイヤ改正されます。時刻表をお確かめの上、お出かけ下さい。

行事報告

7月3日(土) 栃木県 奥日光
参加: 40人 天気: 曇

マガモ トビ ノスリ キジバト カッコウ
ホトトギス アカゲラ コゲラ キセキレイ
モズ カワガラス ミソサザイ コマドリ
ノビタキ ウグイス エゾムシクイ キビタ
キ コサメビタキ コゲラ シジュウカラ
ホオジロ ホオアカ アオジ ニュウナイス
ズメ スズメ ムクドリ ハシブトガラス
(27種) 前夜来の雨も上がり、まずまずの探
鳥会日和となった。赤沼をスタートし、ワタ
スゲやツツジの花が盛りの戦場ヶ原を通り、
湯川沿いに湯滝までの4時間の探鳥を十分楽
しめた。鳥は、ノビタキ、ホオアカ、キビタ
キ、コサメビタキなどの夏鳥が見られた。又、
アオダイショウがミソサザイの巣を狙ってい
る珍しい光景も見られた。(中島康夫)

7月11日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 55人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ ア
オサギ カルガモ コジュケイ キジ イカ
ルチドリ コアジサシ キジバト カワセミ
コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハク
セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオ
ヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ
カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ ハ
シボソガラス ハシブトガラス (29種) 荒川
の増水で、予定していた明戸堰に下りられな
いので、野鳥の森方面のコースに変更。薄日
が差す程度のまずまずの天気となった。土手
をのんびり歩いていると、ゴルフ場の木立か
らイカルの声が聞こえた。この季節には珍し
い。もう少し美声を長く聞かせてくれれば言
うことはなかったのだが。あとは、出て欲し
い鳥が持ち場で頑張ってくれたので、発
熱でお休みの菱沼リーダーのピンチヒッター

として、何とか責任は果たせたようだ。
(森本國夫)

7月18日(日) 浦和市 三室地区
参加: 23人 天気: 雨、曇

コサギ カルガモ オナガガモ バン キジ
イソシギ キジバト カッコウ ヒバリ ツ
バメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ
オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カ
ワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシ
ボソガラス ハシブトガラス (22種) 先月、
三室の探鳥会はいつも天気だ! と言ってしま
ったら、今月は雨。雨でも三室の探鳥会は頑
張りました。博物館の中で、海老原副支部長
の「ツミの子育て」のビデオ放映があり、参
加者の喝采を浴びた。雨で短いコースであ
ったが、雑木林を歩いたり、神社に参ったり、
楽しい探鳥会であった。(楠見邦博)

7月25日(日) 狭山市 入間川
参加: 11人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ ササゴイ コサギ カル
ガモ トビ コジュケイ キジ イカルチド
リ イソシギ キジバト カッコウ カワセ
ミ コゲラ ツバメ イワツバメ キセクレ
イ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨド
リ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジ
ロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ
オナガ ハシブトガラス (30種) 前日からの
雨で、入間川はかなり増水し、河原も水浸し。
空模様も怪しく、人間が遊ぶには都合が悪い
ことばかり。しかし、人が少ないのは鳥には
好都合。田島屋堰でじっと魚を待つゴイサギ
や、浅瀬を走り回りながら餌を取るコサギの
姿が、いつもより安心して見えているように見え
たのは、気のせいだろうか。人影まばらな稲荷
山公園には美しいイカルのさえずりが響いて

いた。

(長谷部謙二)

7月31日(土)『しらこぼと』袋詰めの会

ボランティア:13人

赤塚義正、荒木恒夫、岩波勇一、海老原教子、神場真文、佐久間博文、佐藤信明、墨江光子、中村榮男、藤野富代、渡辺敦、渡辺喜八郎、山岡百合子

8月1日(日) 北本市 石戸宿

参加:27人 天気:快晴

カイツブリ ヨシゴイ カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ バン キジバト ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(17種)長いながい梅雨が明けた。強い日差しに汗も久しぶり。“夏は来ぬ”。池に「ケレレレ……」の鳴き声。湿地の柳の「一筆啓上……」ただそれだけ。天を仰ぐリーダーたち。やっと出た!チョウゲンボウのホバリング、バン、そしてヨシゴイ。最後に、町田氏のビデオの美しい鳥たちでフラストレーション解消。タコノアシ、ネムノキ、クズの花。(岡安征也)

8月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加:18人 天気:雨後曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ イカルチドリ イソシギ コアジサシ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(27種)雨の中、ぼつぼつと人が集まってきた。傘をさしての探鳥会もたまにはいいものだ。ゴルフ場の林でカワラヒワとホオジロが囀っている。コゲラもゆっくり観察。野鳥の森では、キツリフネ、ヤブラン、ヤブミョウガの花を觀賞。河原では、カワウの大群!上空を旋回した後、川面に降りた。カワウ達は一斉に水中に潜ったと思うと、各々、銀色に輝く大きな魚をくわえて水面に上がってきた。この素晴らしいショーが見られ、雨の中を参

加した人も報われた。いつしか雨も止み、薄日も差してきたところで解散。(菱沼一充)

8月15日(日) 浦和市 三室地区

参加:48人 天気:曇

コサギ カルガモ コガモ オシドリ バン コジュケイ イソシギ キジバト カッコウ コゲラ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(24種)お盆の日の探鳥会でしたが、沢山の人が参加しました。暑い中の参加者には、「オシドリのエクリプス」という探鳥会初出現のプレゼントがありました。例年のように、博物館の研修生が7名参加して、博物館と当支部との協力を示しました。(楠見邦博)

8月22日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加:53人 天気:晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ スズガモ バン シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ ミユビシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ウミネコ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス(39種)久しぶりの夏らしい日差しであった。南風が強く吹いて潮は余り良くなかったが、早くも渡ってきたシギ・チドリを参加者全員がゆっくり見られた。今年は長雨のせいか鳥の数が少ないような気がした。(佐久間博文)

8月28日(土)『しらこぼと』袋詰めの会

ボランティア:17人

赤塚義正、荒木恒夫、石井幸男、岩波勇一、海老原教子、工藤洋三、桜庭勇、佐藤信治、篠原東彦、鈴木啓紀、墨江光子、中島章二、中村治、藤野富代、渡辺敦、渡辺喜八郎、山岡百合子

連絡中長

●明戸堰上流が銃猟禁止区域に

本年2月号でお知らせした荒川明戸堰上流のコハクチョウ飛来地は、今年度から正式に銃猟禁止区域になりました。川本銃猟禁止区域が1,318haに拡大され、その中に含まれたものです。

一方、拡大を要望していた利根川阪東大橋銃猟禁止区域については、2kmの間隔を置いて、烏川合流点付近から上流が上里町烏川神流川銃猟禁止区域314haになっています。

来年2月15日までの狩猟期間中、事故にあわないようご注意ください。

●1年間の統計では

この度発表された埼玉県の平成4年度野生動物行政概要によれば、狩猟者に捕獲された鳥類は、キジバト43,246羽、スズメ類36,374羽、カモ類13,300羽など、合計105,197羽。有害鳥獣駆除の捕獲数キジバト1,411羽、スズメ類6,889羽、カモ類165羽など合計13,420羽を合わせると、総合計118,617羽の野鳥が「捕獲」されたこととなります。

●評議員の交代

全国評議員会などで、支部を代表して意見を述べる評議員は、松井昭吾支部長が担当していましたが、今年度になって海老原美夫副支部長（前評議員）が本部理事の任期を満了したことから、もとの評議員に戻るよう松井支部長から要請があり、支部役員会の議決を経て、9月の理事会でも交代が承認されました。

今年2月の評議員会では分科会の座長をつとめるなど職責を果たした松井支部長は、今後も支部長として支部の牽引役に徹します。

海老原副支部長は、（東京支部を除く）関東ブロック全支部の代表として理事会・理事懇談会などで意見を述べ、30万人部会の委員に就任して野鳥の会の未来像策定に参加するなど、3年間の理事任期を無事つとめ終りました。皆様のご支援に感謝しております。

●12月の土曜日当番（2時～6時）

4日 伊豆沼探鳥ツアーとの関係で、事務局休みます。

11日 山部直喜 海老原美夫（編集会議）

18日 長谷部謙二 山本真貴子（校正作業）

25日 袋づめの会（1時から）

●会員数は

個人特別会員 57人

正会員 1,445人

普通会員 222人

家族会員 586人

ジュニア会員 12人

11月2日現在 合計 2,322人 です。

活動報告

9月27日 10月号発送作業（毎月袋づめの日の翌々日、事務局担当者が郵便局まで運び、発送しています）。

10月2日 普及部会議。

10月16日 編集会議。11月号入稿。

10月22日 11月号校正作業（海老原美夫・大武昭雄・工藤洋三・高草木泰行）。

10月24日 役員会議（司会・岡安征也、各部の報告・次回関東ブロック協議会出席者・年末講演会・『野鳥』誌の支部ホットラインに対する対応・その他）。

10月26日 埼玉新聞連載『埼玉自然見て歩き』第11回～20回分入稿。

10月28日 パネル展準備作業。

編集後記

先月は編集会議に出席できず、尊敬する部員諸兄にすっかりお任せ。今月は頑張らねばと、午前中からねじりはちまき。しかし、みんなが集まる午後にはほかの会議に飛んでいかなければならないし、夕方からは京都行き……。私に限らずボランティアたちは忙しい。それでも少しは役に立ちたいと思っているのですが、ね、ちゃんと半分は仕事して行きましたよ。あとはお願い！（山部直喜）

『しらこぼと』1993年12月号（第116号） 定価 100円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 関東図書株式会社 （本誌掲載記事の無断転載はかたくお断りします）